

## 害虫の生態と対策③ ～ミカンサビダニ～

農業技術防除センター 白石祥子

今月は、カンキツ類で問題となる「ミカンサビダニ」について説明します。

### 一生 態

ミカンサビダニは、名前の通りダニの仲間的一种で、「フシダニ類」とよばれる種類です。ダニの仲間ではありますが、形は果樹でよく目にするハダニ類とは全く異なり、成虫も幼虫も薄黄色でくさび形をしており、足は2対4本(ハダニ類は4対8本)です。成虫でも体長は0.2mmにも満たないほど非常に小さく、夏場などに果実上での寄生数が増加するとサビダニが密集している部分がうっすらと粉をまぶしたように見える場合がありますが、数が少ない時には肉眼で見つけるのは困難です。

冬の間は成虫が芽の鱗片内に潜んで越冬していますが(図1)、気温が上昇して芽が動き始めると新芽上で増殖を始めます。春から秋にかけて15世代程度繰り返すといわれています。葉や果実で増殖したのち、晩秋になり気温が下がってくると越冬場所となる芽などに移動します。

気温やその他の気象条件等にもよりますが、葉(新葉)では5月から7月頃、果実では6月から8月頃に寄生数が増加します。ただし、秋以降に気温が高くと10月過ぎまで果実上での増殖、加害は続きます。



図1 芽の中で越冬する成虫



図2 新葉での被害(葉裏の褐変)

### 一被 害

ミカンサビダニは、カンキツの新葉や果実に寄生し、口針を差し込んで吸汁し被害を与えます。葉では主に葉裏に寄生し、寄生密度が高くなると、葉がゆがんだり、褐色のすじ状の被害痕ができたり、葉裏が黒く汚れたりという症状が現れます(図2)。

早い年では6月から果実被害が確認できる場合があります、日当たりのよい部位の外成りの果実に被害が多い傾向にあります。7月頃までに加害されると、灰白色で「がさがさした象皮状」の被害(図3)が生じ、8月以降に加害されると、茶～黒褐色(図4)になります。

ミカンサビダニは増殖率が高く、被害が短期間で広がることがあります。また、ミカン

サビダニの被害は吸汁後 10～20 日程度遅れて発生するため、被害を確認してから防除を行いサビダニが死亡しても、その後 1 か月近く被害が拡大することがあります。



図 3 主に 6～7 月頃の加害による果実被害



図 4 主に 8 月以降の加害による果実被害

#### —防除対策—

ミカンサビダニの最も重要な防除時期は、葉や果実での密度が高まり始める 6 月上中旬です。近年は春先以降の気温が高いことが多く、密度が急激に上昇する可能性があるため、遅くならないように注意する必要があります。この時期は、チャノキイロアザミウマやカイガラムシ等を同時に防除する必要がありますので、自園地の害虫の発生状況に応じて薬剤を選択する必要があります。また、例年被害が多発する園やその近隣の園では、一度の防除では密度を抑えることができない可能性があるため、7 月上中旬にも再度防除を行います。一般的にはこの時期(6 月上中旬、7 月上中旬)の防除および 8 月頃のハダニ類との同時防除で被害は抑えられますが、近年は秋季の気温が高いことで遅くまで発生が続くことがありますので、園内観察をしっかりと行い新たな被害を確認したら早急に防除を行ってください。

ミカンサビダニの発生は、同じ園内でも樹ごとにばらつきが大きいのですが、前年果実被害が多かった樹では芽での越冬数が多い傾向にあります。越冬数が多いと春先の発生が多い傾向にあるため、特に前年被害が多かった場合は 6 月頃の防除を徹底します。また、ミカンサビダニは非常に小さい虫であり、自力での移動に加え、風により発生場所から周辺に広がるということがわかっています。風の強さにもよりますが 10～100 メートル位の距離まで広がるとの調査結果もあるため、多発樹やその周辺は特に注意して防除を徹底しましょう。

近年、ミカンサビダニに対する薬剤の効果が低下しているのではないかととの相談を受けることがあります。2018 年に薬剤感受性検定を行ったところ、検定に用いた大部分の薬剤の効果は高いという結果が出ています。農薬の効果はあるのに被害が多発する原因は何かを考えてみると、①薬剤散布によってミカンサビダニは死亡したが、被害が後まで出た ②薬剤のかけムラ の 2 点が大きいのではないかと思います。

①については被害の項にも述べたように、加害と被害発現の間には 10～20 日程度の時間差があるため、果実での密度が高まった時期に防除をしても防除前に加害された被害が後で現れてくる場合がありますので、防除時期を逸しないことが重要です。②については生態

の項にも述べたように、ミカンサビダニは非常に小さな虫であるため、かけムラが多いと十分な効果が期待できません(図5)。十分量を丁寧に散布してください。前年被害が多かった樹や散布時に被害が確認されるような樹は特に入念に防除を行ってください。

試験場では、今後もミカンサビダニを対象に、新しい薬剤の防除効果の確認、既存薬剤の感受性検定を予定していますので、新しい情報については随時提供したいと思います。



図5 薬剤の付着ムラと被害  
(薬剤が付着したところには被害がない)